

令和5年度使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業

地域内での使用済衣服の回収&循環のプラットフォーム リリース・キャッチ 「RELEASE⇔CATCH」創出のための検討・実証事業

報告書



京都市環境政策局地球温暖化対策室

令和6年2月

<事業の全体概要>

RELEASE⇔CATCH

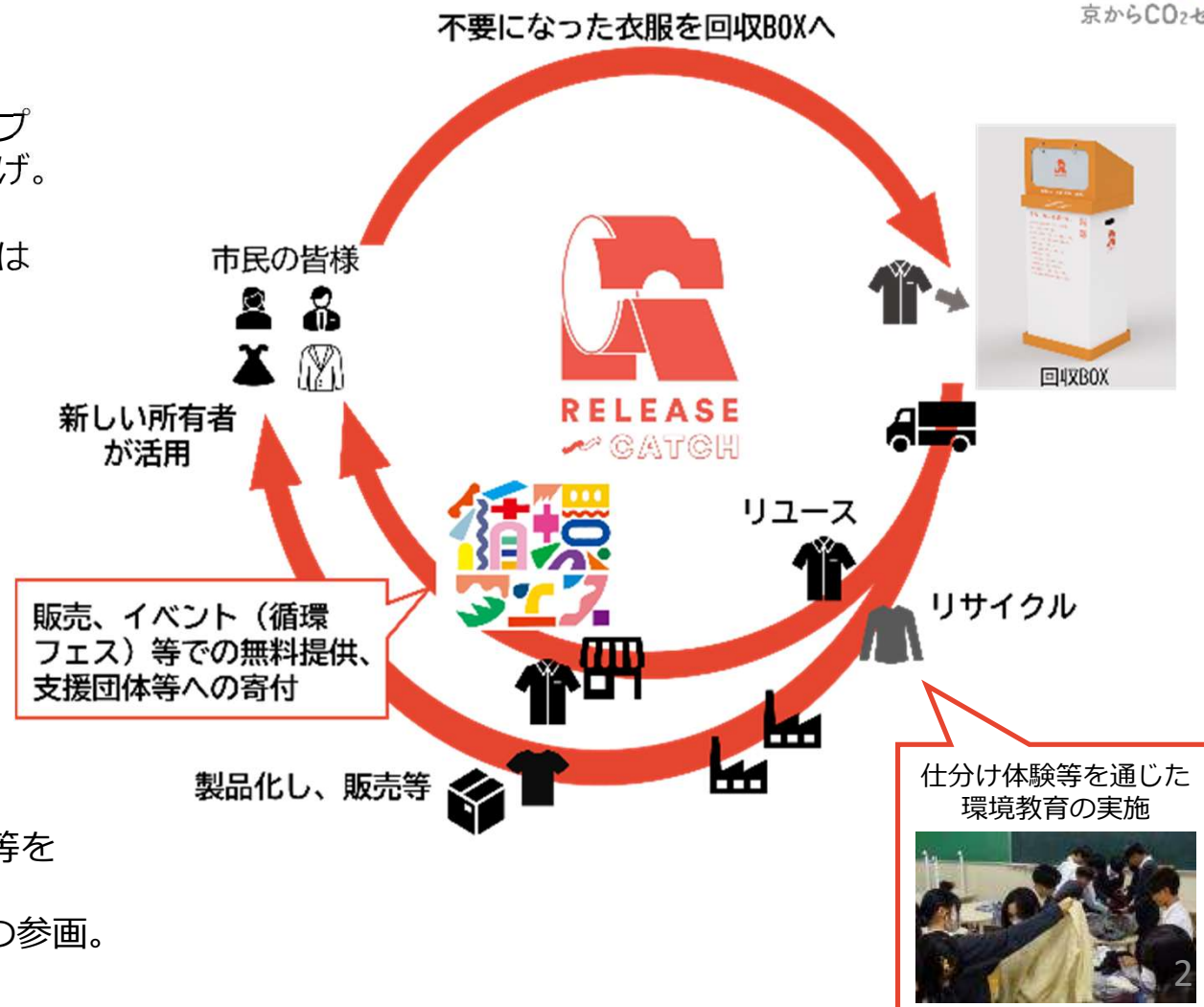
- 家庭で不要になった衣服を回収、循環させるプラットフォーム「RELEASE⇔CATCH」を立ち上げ。
- 使用済衣服の回収BOXを設置
- 回収した衣服は仕分け後、リユース可能な衣服は値付けし販売。

循環フェス

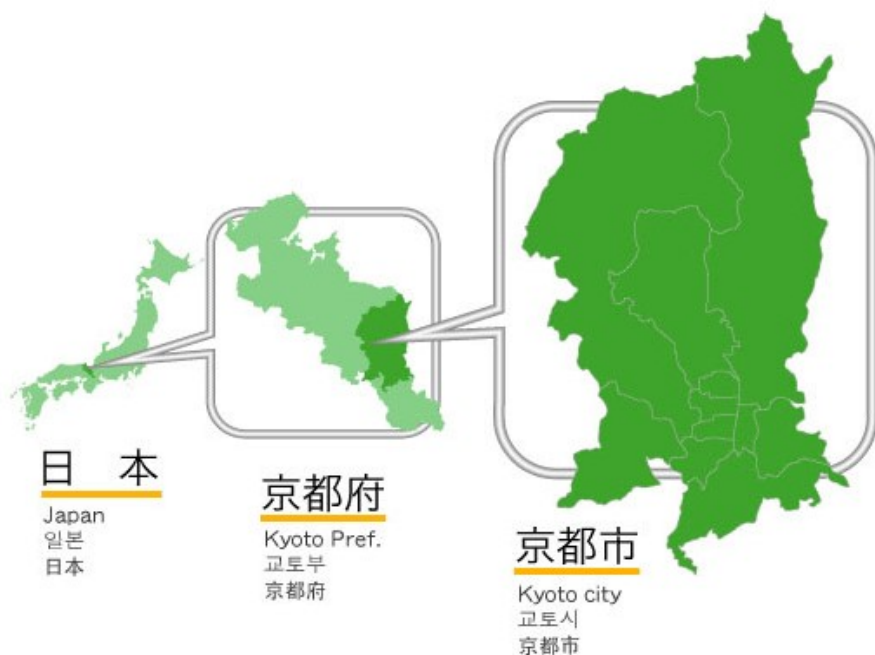
- 使用済衣服の回収と循環を体験できるイベントとして開催。
- 会場内での回収BOX設置に加え、回収した使用済衣服の無料提供を実施。

出張授業等を通じた人材育成

- 高校、大学への回収BOX設置とともに出張授業等を実施。
- 「循環フェス」の実行委員会への学生メンバーの参画。



1. 対象地域の概要



「京都議定書」
「IPCC京都ガイドライン」 誕生地

145万人が生活する
内陸の大都市

38の大学・短期大学が集積し、15万人の学生が学ぶ
大学のまち

自治の伝統に裏打ちされた
市民力・地域力

【使用済衣服のリユースに関する取組】

- 資源物回収によるリユースの促進
 - ✓ 拠点回収（区役所等での回収）
 - ✓ 移動式拠点回収（学校や公園などの市民の皆様の身近な場所に出向いて回収）
 - ✓ コミュニティ回収（地域における集団回収）
- 民間事業者の衣料品自主回収推奨店の紹介（<https://kyoto-kogomi.net/mybottle/#mybottle04>）

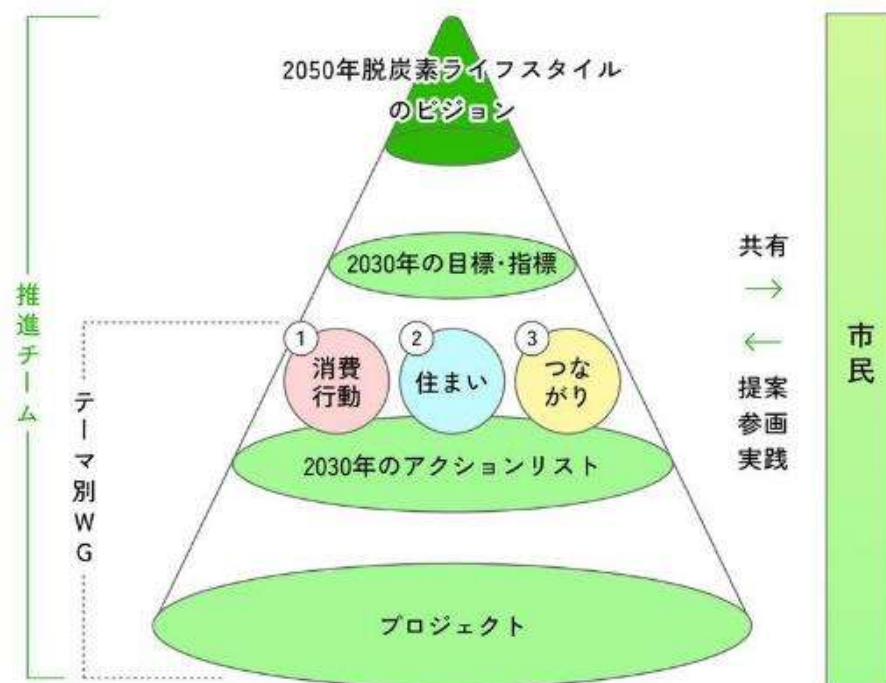
2. 事業の目的

事業の位置づけについて

- 2050年の京都における脱炭素社会と将来世代が夢を描ける豊かな社会を同時に実現するため、市民、事業者及び学識者等で構成する「京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～（以下「京創ミーティング」という。）」を令和3年9月に発足。
- 共有すべき脱炭素ライフスタイルのビジョンを構築。
- 実現するためのアクションを市民が実践しやすい仕掛けとして企業等と連携したプロジェクトを創出。
→市民運動的に広がることを目指す。



（京創ミーティング会議の様子）



2. 事業の目的

背景

- ファッション産業は環境負荷が大きいことから「ファッションロス」として社会課題に。
- 京創ミーティングで啓発する市民が実践するアクションとして「古着の利用」「長く大切に着る」「お直し・リメイクファッション」「フリーマーケット、リユースショップの活用」等といった項目を掲げる
→市民の行動変容を促す仕掛けとしてプロジェクトを推進
- 京都市はサステナブルなファッション業界への移行を推進することを目的に設立された企業連携プラットフォームであるジャパン・サステナブル・ファッション・アライアンスのパブリックパートナーに自治体として初めて参画。
- 令和4年度に、使用済衣服の回収BOXを設置し市内で循環させるプラットフォーム「RELEASE⇔CATCH」を構築。令和5年度は、本取組を踏まえ、回収及び循環システムの強化を図る。

目的

京都市域内で【不用品の回収】と【再利用】の輪を広げ、リデュース、リユース、リサイクルの若者文化を醸成する

3. 事業の内容

(1) 使用済衣服の回収&循環プラットフォーム「RELEASE⇔CATCH」

【回収BOXの設置】

- ・ 令和4年9月から回収開始
- ・ 常設設置：京都市内で新規18か所（計84か所）※市外125か所。全209か所
- ・ イベント等と連携して設置：8回（6か所）

【回収品目】

衣服全般（靴、カバン、アクセサリ類等は回収対象外）

【回収した衣服の活用】

- ・ 古着事業者による店舗での販売、イベント等での販売
- ・ アップサイクル製品への活用
- ・ リサイクル事業者によるリサイクル

【プロジェクトのホームページ】

RELEASE⇔CATCHのホームページ (<https://release-catch.com/>)

【効果検証の方法】

- ・ 回収した使用済衣服／リユース、リサイクル重量等を計測



(回収BOX)

3. 事業の内容

・回収BOXの設置（京都市内の常設設置）

	連携先	設置場所	既存	新規	計
1	京都信用金庫	本支店等	49か所	0か所	49か所
2	(株)ヒューマンフォーラム	古着販売店等	3か所	0か所	3か所
3	(株)ジェイ・エス・ビー	・ 本社 ・ 入居者を対象に市内学生マンション	5か所	16か所	21か所
4	京都市教育委員会	京都市立高校	9か所	0か所	9か所
5	ドコモショップ	店舗	-	2か所	2か所
計			66か所	18か所	84か所

（参考）KUZUHAモール内3か所に設置（大阪府枚方市）



回収BOX設置の様子



RELEASE⇔CATCH周知用チラシ

3. 事業の内容

- ・回収した衣服の活用（京都市内の店舗での販売（SPINNS事業への卸売販売））

	連携先	販売場所	期間	備考
1	京都SPINNS	1か所	8月～ ※常設販売	全国14店舗で販売（京都店含む）



3. 事業の内容

・ イベント等との連携①（大規模イベント）

大規模イベントの中で回収BOXの設置や啓発活動を実施（来場者計：約4万8千人）

	連携先	開催場所	期間	来場者数	内容
1	京都サンガF.C.	京都サンガスタジアム （亀岡市）	R5.8/26 16時～19時	約9,800人	・ 回収BOXの設置
2	京都音楽博覧会2023	梅小路公園	R5.10/8、9	約2,200人	・ 回収BOXの設置 ・ ￥0マーケット （回収した衣服の無料提供）
3	京都マラソン おこしやす広場	みやこめっせ	R6.2/16、17	約16,000人超	・ 回収BOXの設置



京都サンガスタジアムでのブース出展



京都音楽博覧会でのブース出展



京都マラソンおこしやす広場
でのブース出展

3. 事業の内容

・イベント等との連携②

	連携先	開催場所	期間	実施内容
1	河原町OPA（商業施設）	河原町OPA（イベントスペース）	R5.9/23、24	回収BOXの設置、回収衣服の販売
2	おとくにマルシェ（地域イベント）	大原野リブSUBACOグラウンド	R5.11/3	回収BOXの設置、¥0マーケット
3	京都工芸繊維大学 環境サークル	京都工芸繊維大学 学生会館	R5.11/5 11時～16時	回収BOXの設置 ※回収した衣服は同大学の学祭にて無料提供（環境サークル主催）
4	河原町OPA（商業施設）	河原町OPA（イベントスペース）	R5.12/23、24	回収BOXの設置、回収衣服の販売 ※大学生が当日の運営に協力
5	河原町OPA（商業施設）	河原町OPA（イベントスペース）	R6.1/28、29	回収BOXの設置、回収衣服の販売



河原町OPAでの販売の様子



おとくにマルシェの様子



京都工芸繊維大学学祭での様子

3. 事業の内容

・回収した衣服の活用（アップサイクル製品）

○古着リメイクブランド



＜活用した素材＞

- ・黒スーツ：45着
- ・ストライプシャツ：3着
- ・デニム：20着

※ こちらの商品はUSEDアイテムを再利用したリメイク商品です。

制作過程で検品を行っておりますが、生地にUSEDアイテムを使用しているため、多少の汚れや破れ、ほつれなどのダメージがある場合がございます。

上記の点をご理解いただける方のみご購入手続きをお願い致します。

↑USEDを拡張する進化型古着屋“森”ホームページより
(<https://mori.market/about/>)

○個人

ホームページに問い合わせがあり、Tシャツを活用。



○大学生（循環フェス）

大学生がカバン、アームカバー、髪飾り等へリメイクし循環フェスで販売。



3. 事業の内容



(2) 「循環フェス」の開催

【日時】

令和5年11月12日（日）午前10時～午後4時

【会場】

梅小路公園 七条入口広場(京都市下京区観喜寺町 5 6 - 3)

【内容】

- ・¥0 Market（ゼロエンマーケット）：使用済衣服の無料提供や回収。
- ・回収コーナー：使用済衣服の回収や出展者企画として羽毛布団、自転車、アクセサリを回収。
- ・循環マーケット：衣服に限らず様々なリユース品、リメイク品が集まるフリーマーケット。
- ・循環マルシェ：添加物などを極力使用しない飲食ブース。
- ・循環ワークショップ：「循環」をテーマにしたワークショップブース。
- ・循環展示：学生や企業のSDGsやサステナビリティをテーマにした取組の発表や展示
- ・ステージイベント：RELEASE⇔CATCHの取組紹介や古着等に関連したトーク企画。

【主催、共催】

主催：循環フェス実行委員会（株式会社ヒューマンフォーラム、京都信用金庫、株式会社ジェイ・エス・ビー、梅小路クリエイティブプラットフォーム）

共催：安田産業株式会社、京都市、公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

【その他】

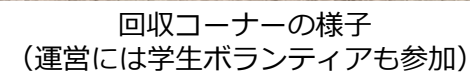
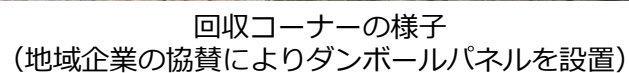
LINE公式アカウント「循環ズ」を開設し、イベント参加者に対して継続的に情報を発信。（R6.2月末時点登録者数1,850人）



<https://junkan-fes.com/>



LINE公式アカウント



3. 事業の内容

(3) 人材育成 | 教育現場等でのサステナブルファッションに関する普及啓発

・講演、ワークショップの実施（5か所、延べ407名参加）

	連携先	内容	人数	日程
1	京都市立 日吉ヶ丘高校	・ 高校1年生を対象に、半年（計10回）にわたりRELEASE⇔CATCHの取組等の紹介を通じ「衣服循環プロジェクト」を学生とともに推進 ・ 取組の成果の一つとして循環フェスでワークショップのブースを出展	35名	令和5年度
2	龍谷大学 経営学部	・ 11月にゼミ生を対象に「サステナブルファッション」をテーマに講義。RELEASE⇔CATCHや循環フェスのイベント等の取組を紹介 ・ 1月には「サステナブルファッション」に関するビジネスアイデアを学生が発表	41名 21名	R5.11/1（水） R6.1/17（水）
3	京都府立 すばる高校	・ 高校生を対象にRELEASE⇔CATCHの取組を紹介 ・ その後、高校生が校内で衣服を回収、販売に取り組む予定	13名	R5.11/7（木）
4	京都府立 洛西高校	・ 高校1年生全員を対象に「ファッションロス」をテーマに講義 ・ RELEASE⇔CATCHや循環フェスのイベント等の取組等を紹介	280名	R5.11/9（木）
5	京都市立 久我の杜小学校	・ 地域で開催するフリーマーケットと同日開催。「サステナブルファッション」をテーマに講義、回収衣服の仕分け体験を実施。	17名	R5.12/3（日）

（参考）その他の講演実績

- ・ 地域の学区自治連合会主催のワークショップ（10/21、12/3）
- ・ 京都生協北ブロックのワークショップ（12/4）

3. 事業の内容

②龍谷大学での取組

↓ 11/1開催の講義の様子



↓ 1/17開催の学生によるアイデア発表の様子（6グループが発表）



3. 事業の内容

④洛西高校での取組



上段：講演やディスカッションの様子。下段：希望者を対象に放課後に実施した回収衣服の仕分け体験会の様子。

3. 事業の内容

(3) 人材育成 | 循環フェスを通じた若者の人材育成

①循環フェス実行委員会や当日ボランティアの参加

- 実行委員会学生メンバー：5名（ステージ等の企画）
- 運営ボランティアスタッフ：16名
 - ・一般参加：6名（大学生5名、高校生1名）
 - ・ブース出展者による参加：10名（高校生10名）

②学生による出展

- ・おおぞら高校×SPINNS：高校生が回収した古着の販売
- ・STUDY FOR TWO（大学学生団体）：回収した古本の販売
- ・日吉ヶ丘高校1年次生Fashion Future Project：古着のアップサイクルワークショップ
- ・徳島県立那賀高等学校：服の循環の取組「服活」の紹介展示



SNSによるメンバー募集の告知



おおぞら高校×SPINNS



STUDY FOR TWO



京都市立日吉ヶ丘高校



徳島県立那賀高校

3. 事業の内容

③ステージイベントの企画・登壇

5つのステージイベントには、延べ13名の学生が関わり、企画・登壇。

- ・開会宣言（総合司会を高校生2名が担当）
- ・「回収した古着のその後～古着循環の裏側～」大学生1名が登壇
- ・「サステナビリティ→リジェネラティブ
私たちはファッションが生み出した課題をこう解決したい!!
～いつもよりほんのちょっと違う角度から考えてみよう～」高校生6名が登壇
- ・「おばあちゃん×学生～もったいない文化とSDGs文化～」大学生2名が登壇
- ・「これからの服との向き合い方を考えよう」大学生2名登壇



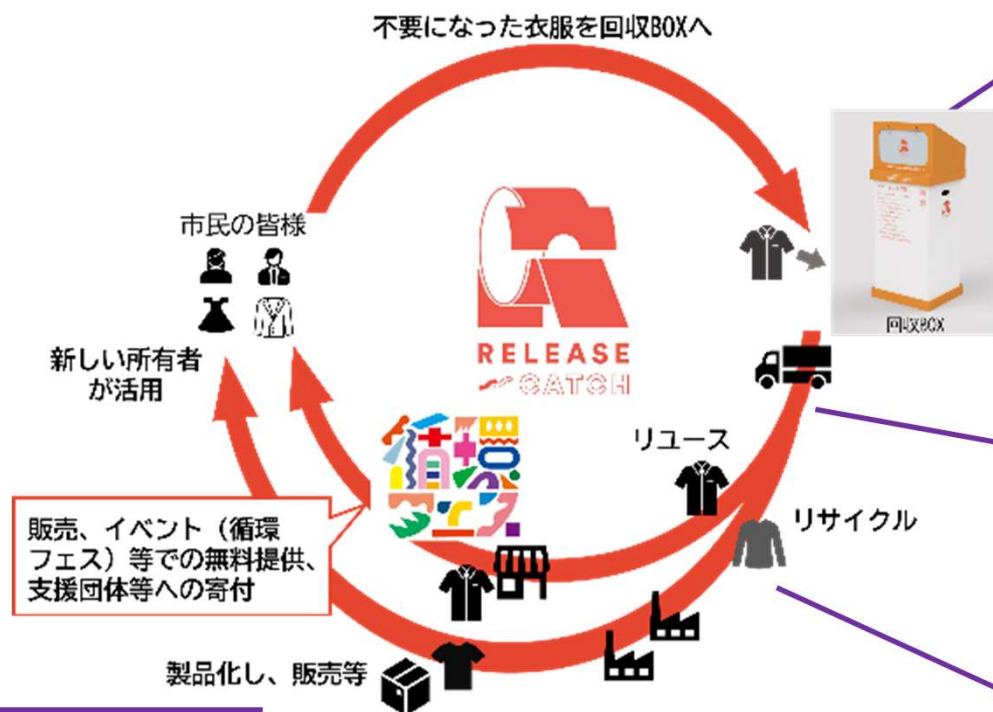
開会宣言の様子



ステージイベントの様子

4. 事業の実施体制

主催：株式会社ヒューマンフォーラム、京都信用金庫
共催：京都市、安田産業株式会社、株式会社ジェイ・エス・ビー
公益財団法人京都市環境保全活動推進協会



回収BOX設置

spinns
ATTITUDE MAKES STYLE!

(株) ヒューマンフォーラム

京都信用金庫

京都信用金庫

・京都市立高校



UniLife

(株) ジェイ・エス・ビー

運搬



(株) 安田産業

仕分け・リユースの小売り、卸



(株) ヒューマンフォーラム

プロジェクト運営支援、全体統括

- ・京都市
- ・（公財）京都市環境保全活動推進協会

5. 事業の成果

定量的効果

○ **ごみ削減量 (kg) と循環利用率 (%)**

回収量 13,055kg

循環利用率：100%（リユース：2,646kg、アップサイクル52kg、リサイクル5,146kg） ※仕分け段階の数値

○ **本取組におけるCO₂削減量 288.8t- CO₂**

・ **使用済衣服の廃棄に係るCO₂の削減量**

19.0 t- CO₂ ※合成繊維割合63.6%×排出係数2.287(kgCO₂/t) × 衣服の回収量(t)

・ **新規衣服の製造に係るCO₂の削減量**

269.8 t- CO₂ ※新製品の製造に係るCO₂排出量25.5(kg/着) × リユースした衣服量(着)

(R5年8月～R6年2月末)

	回収量 [着数]	リユース量 [着数]	使用済衣服の 廃棄に係る CO ₂ の削減量 (t-CO ₂)	新規衣服の 製造に係る CO ₂ の削減量 (t-CO ₂)	CO ₂ 削減量 (t-CO ₂)
RELEASE⇔CATCH	10,824kg [43,295着]	2,203kg [8,812着]	15.7	224.7	240.4
循環フェス (11/12開催)	2,231kg [8,924着]	443kg [1,770着]	3.3	45.1	48.4
計	13,055 kg [約52,000着]	2,646kg [約10,500着]	19.0	269.8	288.8

※1着0.25kgとして計算

5. 事業の成果



・回収量（内訳）

※1着0.25kgとして計算

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計 (R5.8～R6.2)
回収量計	308kg [1,233着]	3,658kg [14,633着]	2,043kg [8,172着]	3,246kg [12,985着]	695kg [2,779着]	2,806kg [11,222着]	299kg [1,196着]	13,055kg [52,219着]
RELEASE⇔ CATCH	308kg [1,233着]	3,658kg [14,633着]	2,043kg [8,172着]	1,015kg [4,061着]	695kg [2,779着]	2,806kg [11,222着]	299kg [1,196着]	10,824kg [43,295着]
循環フエス	—	—	—	2,231kg [8,924着]	—	—	—	2,231kg [8,924着]

5. 事業の成果



・循環利用量（内訳）

※1着0.25kgとして計算

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計 (R5.8～R6.2)
循環量計	458kg [1,831着]	1,654kg [6,616着]	1,451kg [5,804着]	1,906kg [7,622着]	844kg [3,356着]	1,025kg [4,098着]	507kg [2,028着]	7,844kg [31,375着]
リユース	238kg [951着]	192kg [768着]	483kg [1,932着]	859kg [3,434着]	385kg [1,540着]	302kg [1,206着]	188kg [752着]	2,646kg [10,583着]
アップサイクル	47kg [188着]				5kg [20着]	0kg [0着]	0kg [0着]	52kg [208着]
リサイクル	220kg [880着]	1,462kg [5,848着]	968kg [3,872着]	1,000kg [4,000着]	454kg [1,816着]	723kg [2,892着]	319kg [1,276着]	5,146kg [20,584着]

（参考）リユース販売量

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
リユース （卸販売）	93kg [371着]	120kg [480着]	315kg [1,259着]	360kg [1,439着]	385kg [1,540着]	295kg [1,181着]	188kg [752着]	1,756kg [7,022着]
リユース （催事販売）	145kg [580着]	72kg [288着]	0kg [0着]	0kg [0着]	0kg [0着]	0kg [0着]	0kg [0着]	217kg [868着]

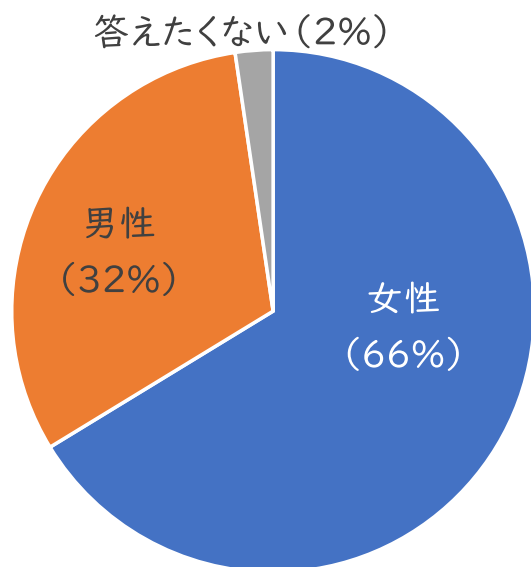
5. 事業の成果（循環フェスアンケート）

・「循環フェス@梅小路公園」参加者へのアンケート

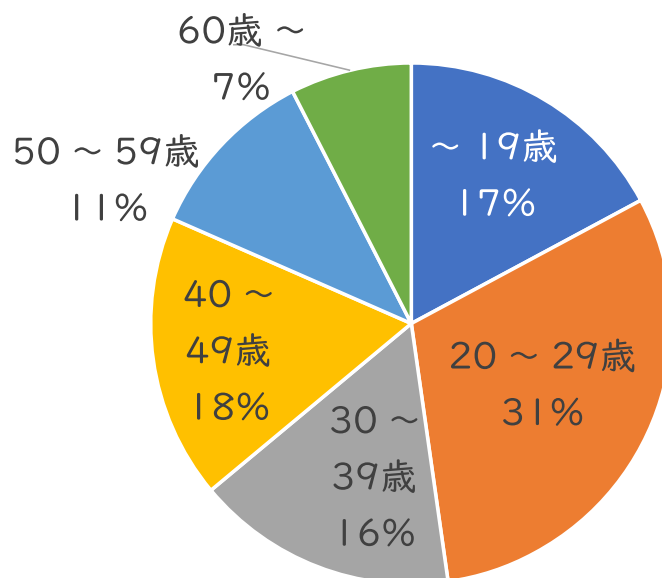
¥0 Marketで衣服を持ち帰った方を対象に実施：回答数863件

【回答者の属性】

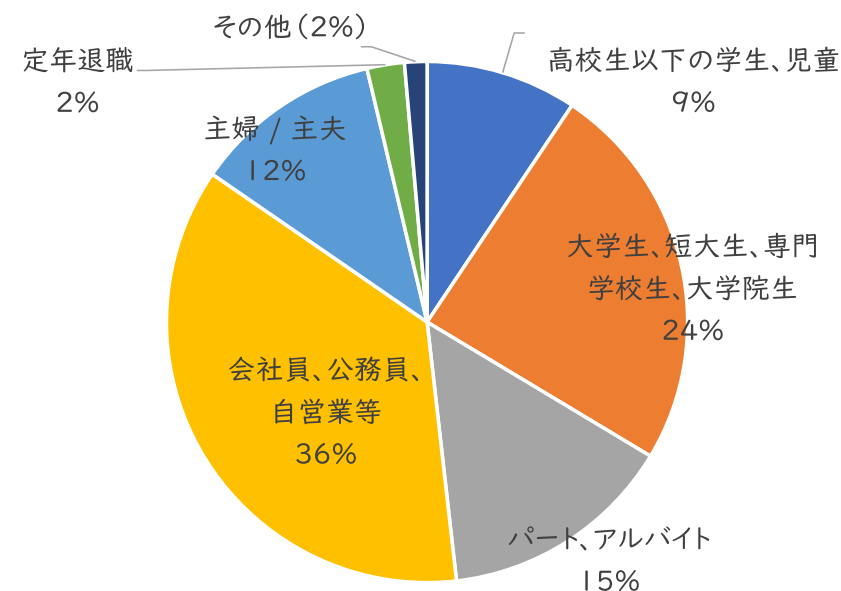
・性別



・年齢

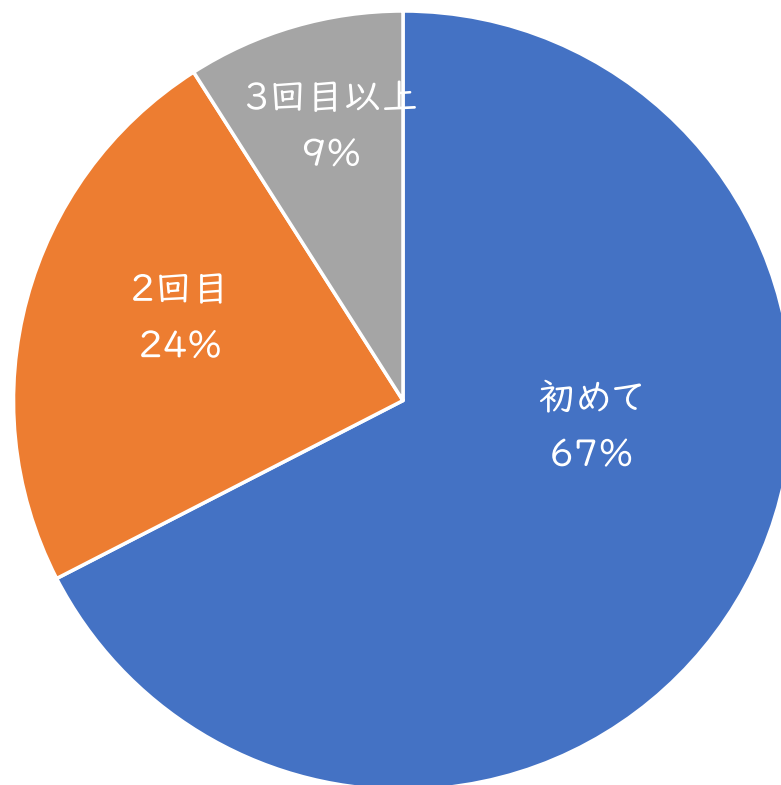


・職業



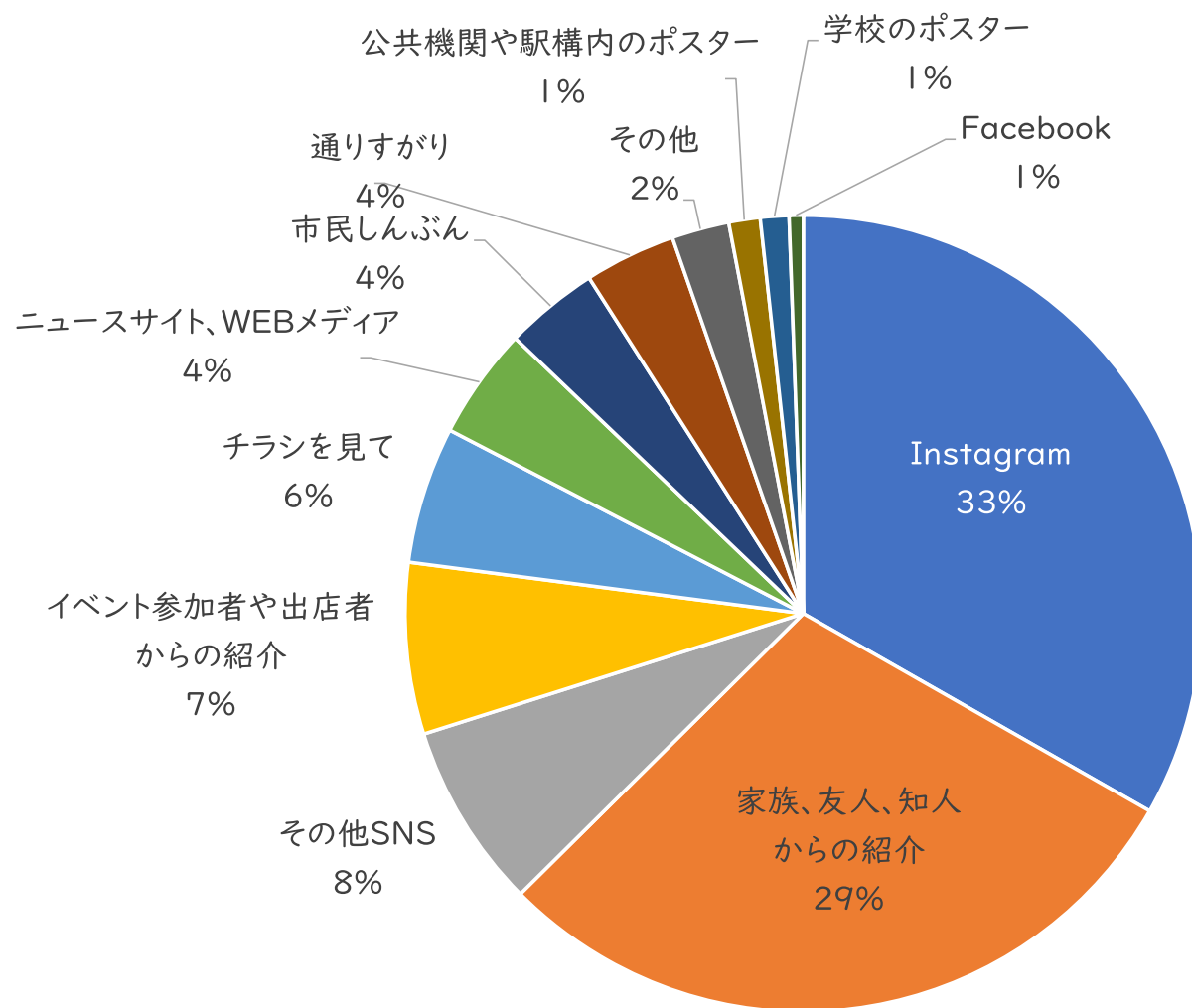
約半数が29歳以下の若年層。参加者のうち、約3分の1が学生。

Q) 循環フェスへの参加は何回目ですか？



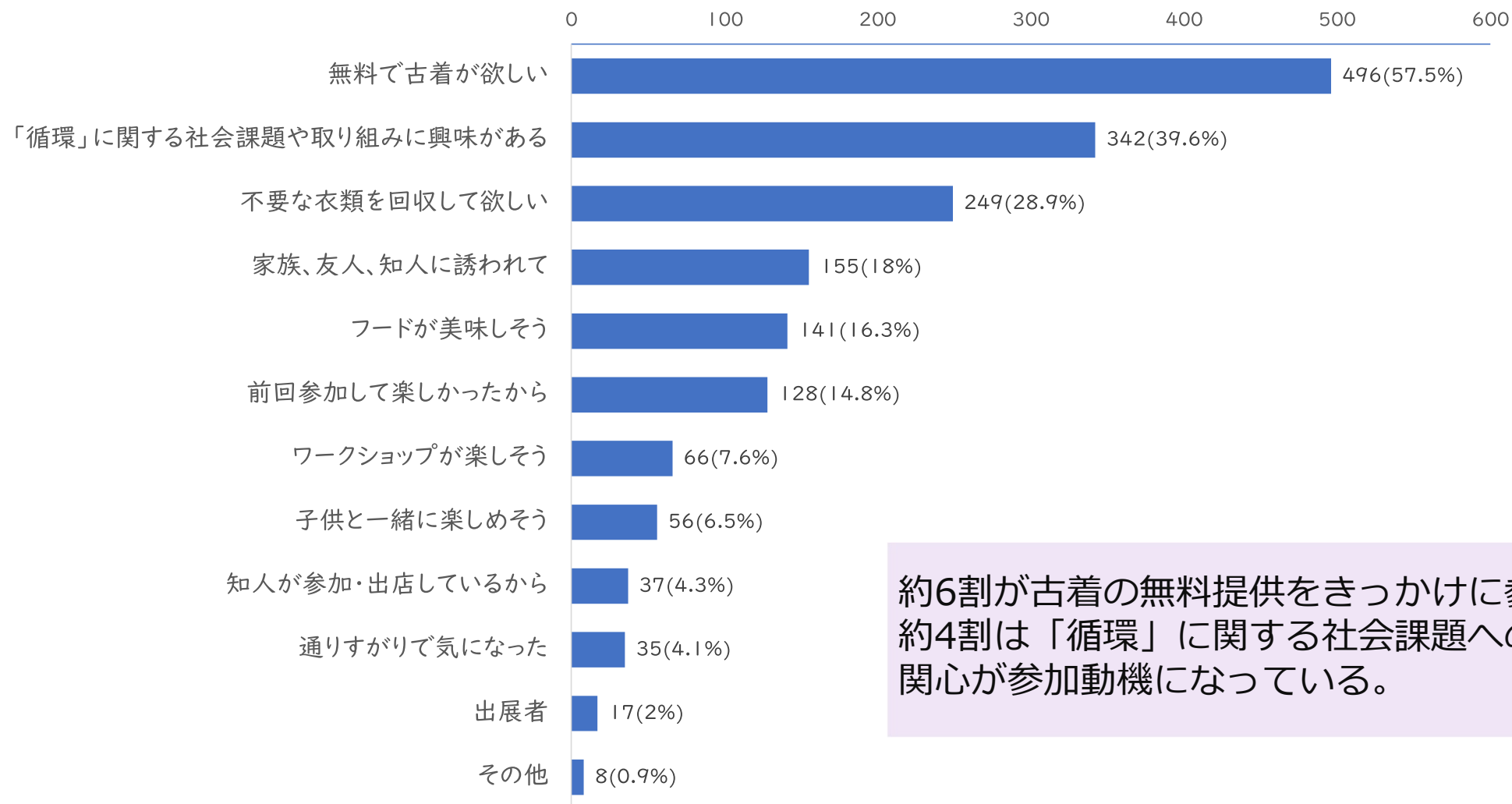
新規参加者を増やしながら、リピーターも多い（約3分の1）。

Q) どこで「循環フェス」を知りましたか？

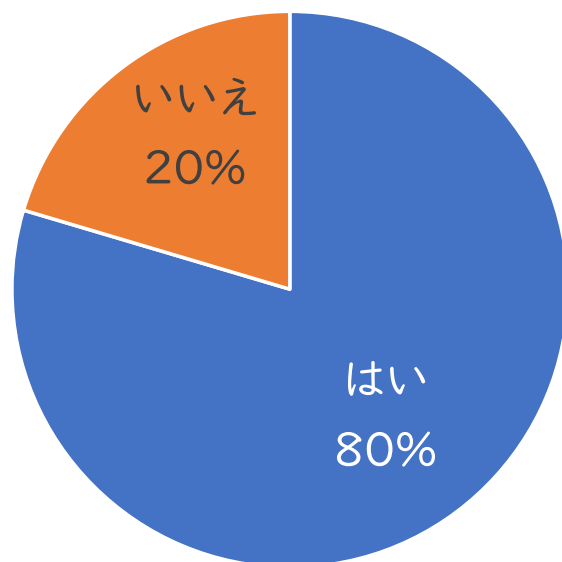


SNS (Instagram) と知人等からの口コミが多い。

Q) なぜ「循環フェス」に行ってみようと思いましたか？（複数選択可）

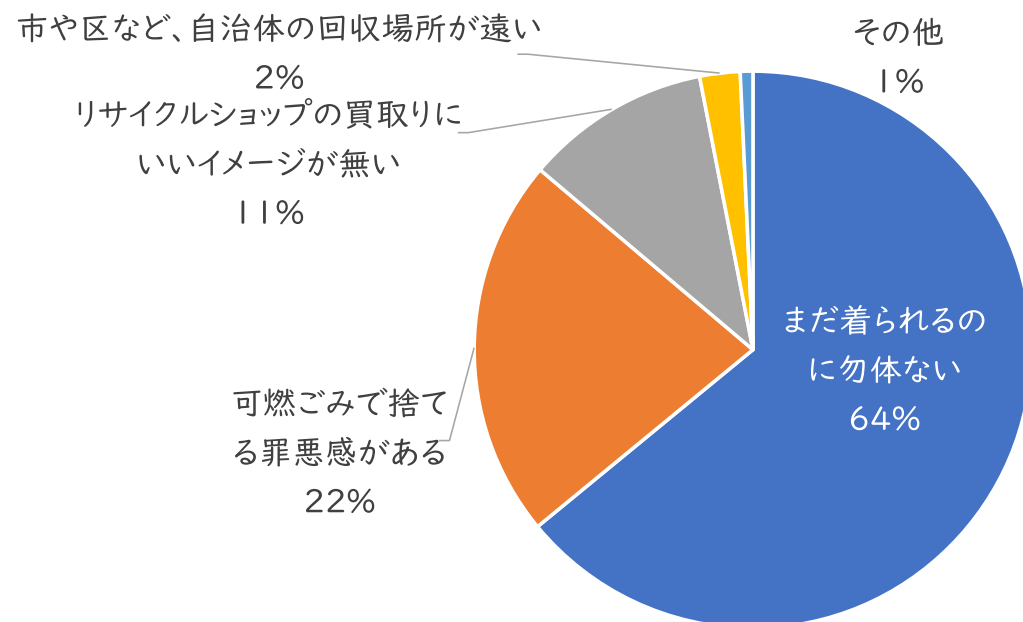


Q) 洋服の手放し方に
困った経験はありますか？



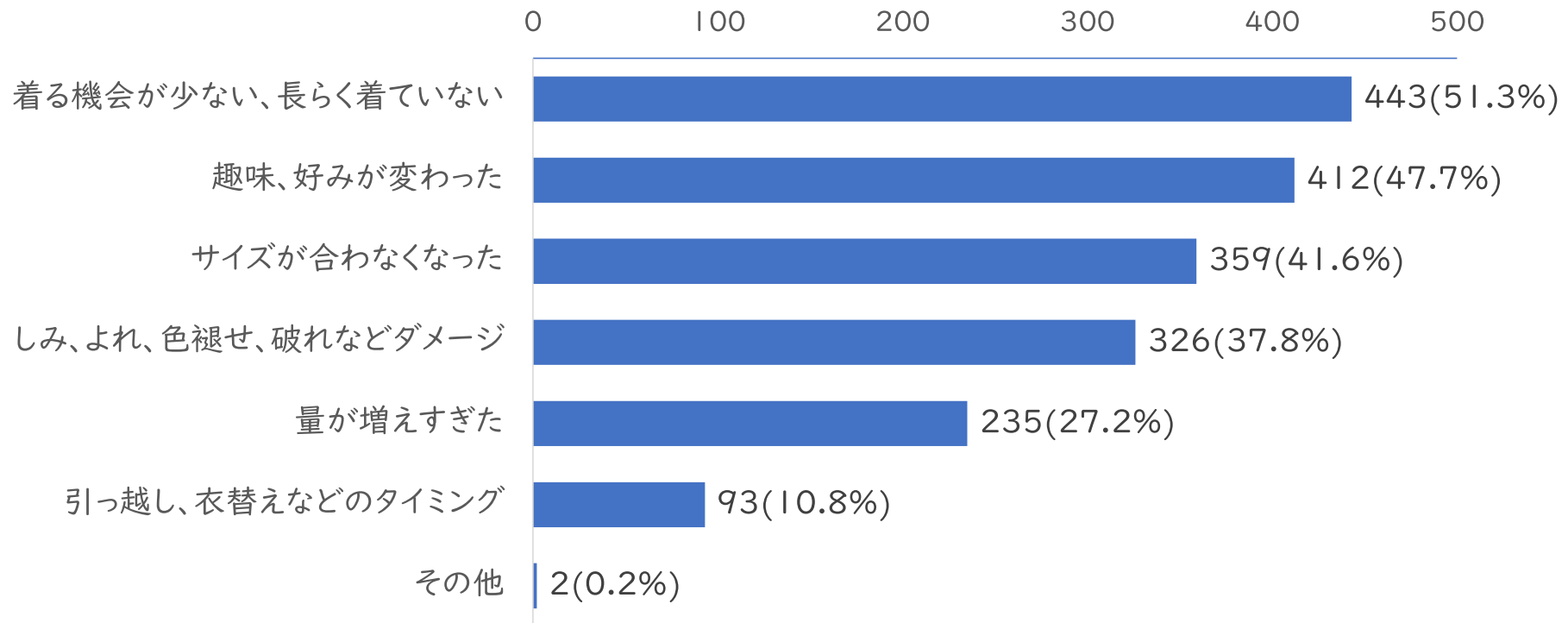
80%が洋服の手放し方に困った経験があると回答

Q) 「はい」と答えた人の理由は？（回答数：687）



- ・まだ着られるのにもったいない
 - ・可燃ごみで捨てる罪悪感がある
- の回答が、合わせて**86%**

Q)どのような理由で洋服を手放すことが多いですか？（複数選択可）

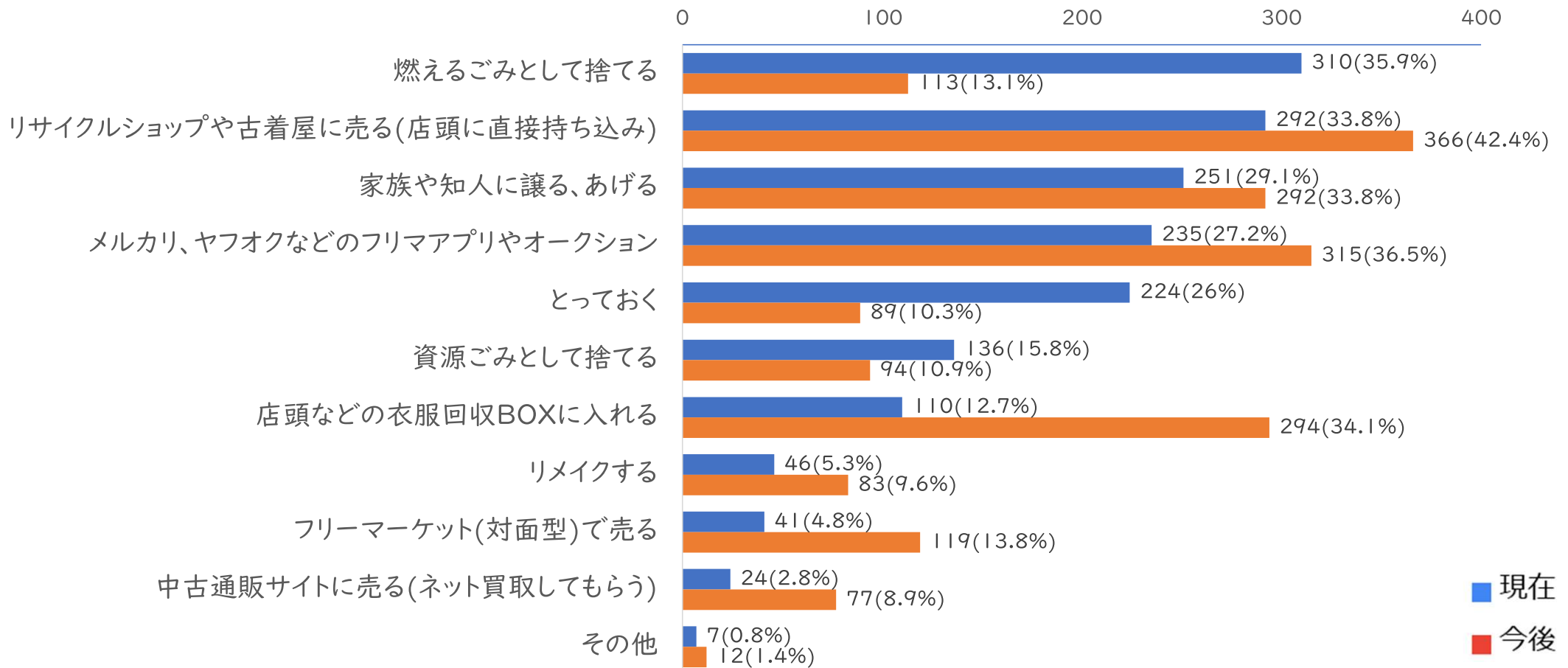


回答数の多い項目

- | | |
|--------------------|-------|
| ・着る機会が少ない、長らく着ていない | 51.3% |
| ・趣味、好みが変わった | 47.7% |
| ・サイズが合わなくなった | 41.6% |

【イベント参加前後での意識の変化】

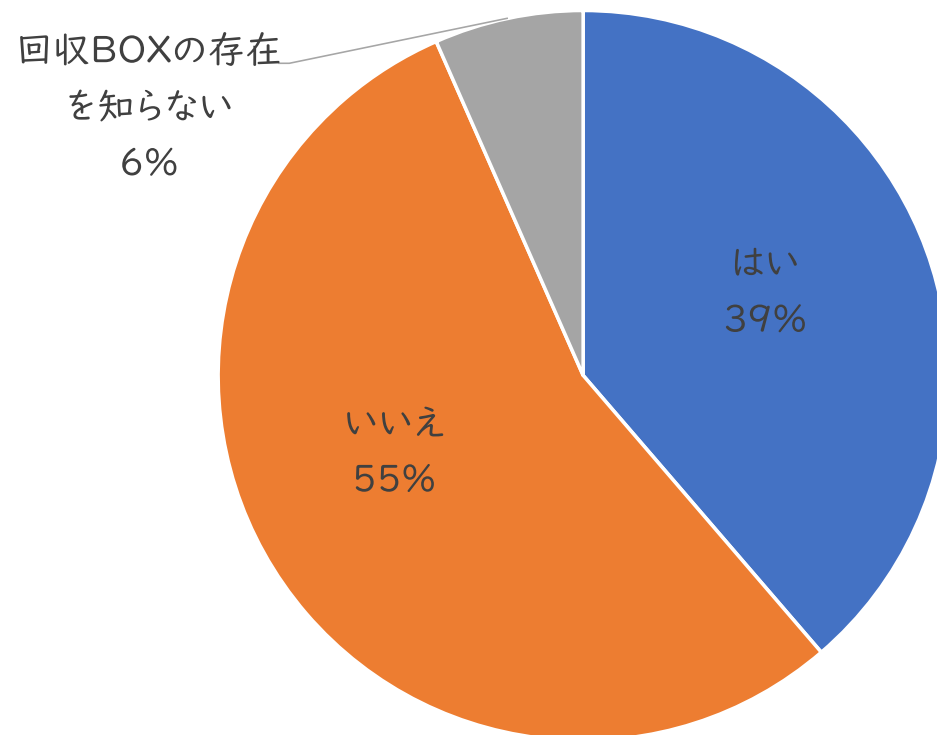
Q)着なくなった服はどうしたいと思いますか？（現在と今後を質問。複数選択可）



「燃えるごみとして捨てる」の回答減（▲22.8%）

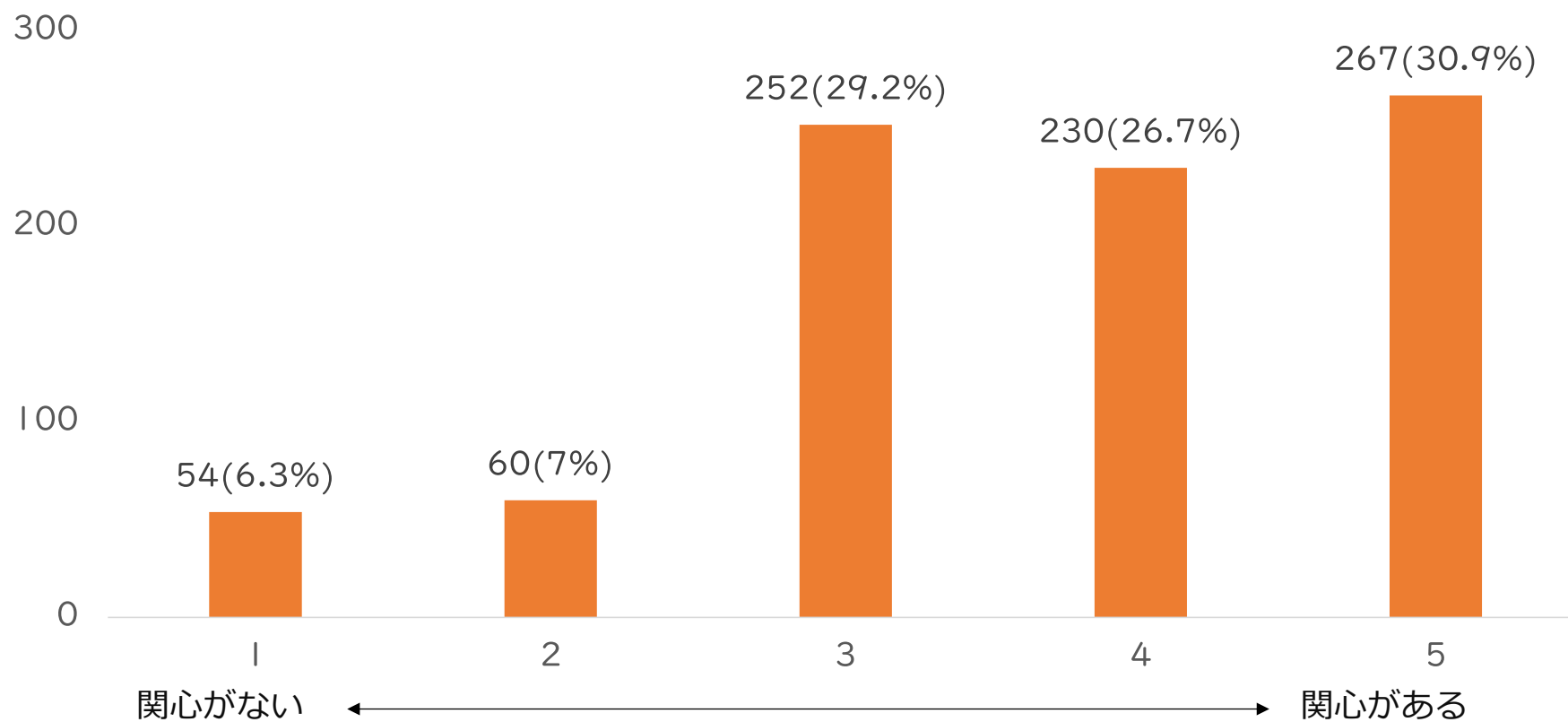
「店頭などの衣服回収BOXに入れる」の回答増（+21.4%）

Q)ショップなどに設置されている衣服の回収BOXを利用したことがありますか？



実際に回収BOXを使ったことがあるのは**39%**

Q)ファッション業界における大量生産、大量消費について関心がありますか？



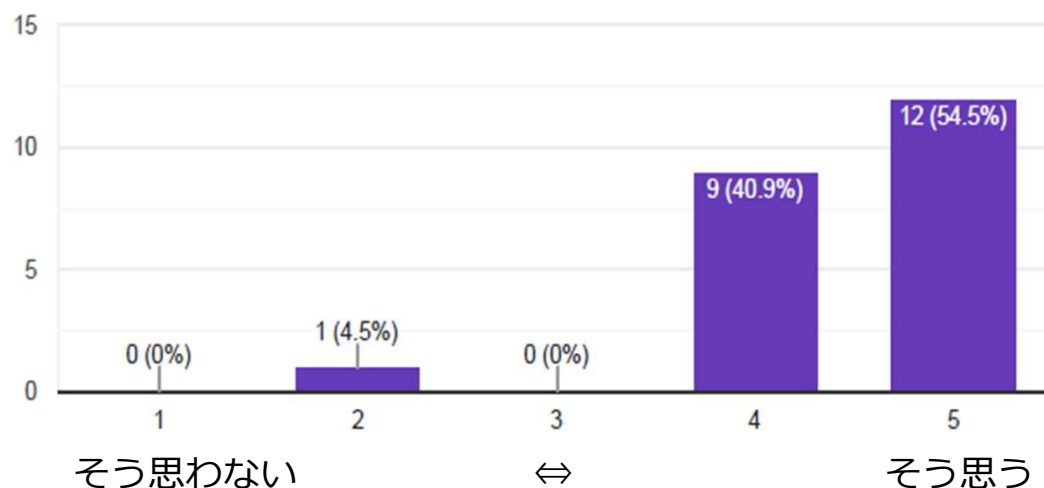
過半数以上**57.6%**が、4・5と回答（5＝関心がある）

5. 事業の成果（講演、ワークショップ）

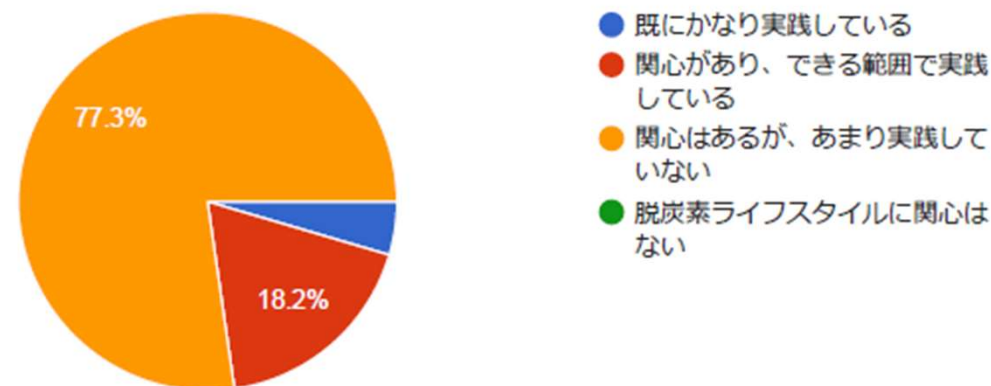
・龍谷大学経営学部 講義実施後のアンケート（11/1実施）

参加者：41名 回答数：22名（回答率54%）

Q)ワークショップに参加することで、自身のライフスタイルを転換しようと思いましたか。



Q)脱炭素ライフスタイルについて、ご自身に最も当てはまるものをお聞かせください。



5. 事業の成果（講演、ワークショップ）

<感想>

- これまで衣服の現状をあまり知らなかったが、衣服 1 着あたり25kgの二酸化炭素が排出されていることを知った。これをきっかけとして、ファッションロスをもっと知りたいと思った。
- 「オシャレは人を巻き込むパワーがある」という言葉が印象的だった。私も服飾サークルに所属しており、フリーマーケットの経験やファッションショーの経験があるので、ぜひ循環フェスに関わりたいと思った。
- 衣服の回収BOXの仕組みや、意義について学ぶことができた。安かろう悪かろうという言葉があるように、安く耐久性のない服ばかりを買い、リサイクルもできないまま捨ててしまうということが無くなったらよい。
- 今回のお話は衣服という観点からだが、回収したモノを仕分けして、たくさんの人と関わりながら仕事や居場所を作っていくというビジョンにとっても感銘を受けた。
- 手に入れ方だけでなく、手放し方を考え直すことは、自分の考えを改めさせられた。私は何でもかんでも買って満足してしまうタイプで、勝ったもののずっと家に置きっぱなしにしてしまう。メルカリで売ることを試みることもあったが、面倒で捨ててしまうこともあった。大切にしてもらえるところに手放す責任を持ちたい。

5. 事業の成果（講演、ワークショップ）



・京都府立洛西高校 講義実施後のアンケート（11/9実施）

参加者：280名 回答数：280名（回答率100%）

Q) 講義を聞いて、環境への意識が変わりましたか？ **3.4** : 変わった 4 3 2 1 変わらない

Q) 講義を聞いて、エコ活動を実施したいと思いましたが？ **3.3** : 実践したい 4 3 2 1 したくない

【興味のあるエコ活動】

ゼロウェイスト	40名	エネルギーの節約・転換（再エネ・創エネ）	57名
食品ロス	105名	ZEH（断熱性能、省エネ・創エネ性能の高い住宅）	46名
地産地消・循環型農業・コンポスト	41名	伝統産業とサステナビリティ	41名
アップサイクル・リサイクルアート	51名	ファッションロス・サステナブルファッション	100名
修理文化の継承	49名	その他	4名

（SDGs、マスクの使用量、古着、もったいない精神）

5. 事業の成果（講演、ワークショップ）



<感想>

- 今日話を聞いて、ファッションも世界の環境と関わっていて大変なことを知った。
- 古着を通して¥0マーケットなど、自分たちの利益より環境を優先している姿がカッコよかった。
- 循環フェスに行きたいと思う。
- 自分の将来の職業に環境を良くできるようなことを目指すのもいいと思いました。
- 服を捨てるだけで二酸化炭素が出ることを初めて知りました。今日来てくださっていた方、全員、かわいいし、カッコいいと思った。
- 服を買いすぎず、長く着るようにしたいと思った。
- リサイクルは環境に良いというイメージがあったけれど、リサイクルしきれずに廃棄されて環境汚染になってしまっていることがあると知って、リサイクルしていい気分になるのではなく、きちんと現状を知ることが必要だと思った。
- 服をリサイクルしていくことで、自分も新しい服を簡単に手に入れることができるし、自分の気に入っていた服がなくなることなく、使われることが嬉しいと思った。

(参考) <https://www.ecosien.org/rakusai-fassion-231109/>

6. 今後の検討課題

- ・ **事業継続（ビジネス化）に向けた更なる回収量と質の向上**
 - ・ リユース可能な衣服の質を保ちながら、回収BOX設置等により回収量を増やす。
- ・ **より高次の資源循環システムの構築**
 - ・ リサイクル技術を持つ協力事業者の参画拡大
 - ・ 出口の透明性確保
 - ・ アップサイクル等推進
- ・ **脱炭素に向けた人材育成の更なる推進**
 - ・ 教育現場等におけるサステナブルファッションに関する普及啓発



7. 事業終了後の継続方針



○連携事業者により継続実施

- ・本事業及び京都市によるプロジェクト実証支援期間終了後も、ビジネスとして継続予定。
- ・法人化も含めた体制づくりに向けて検討を進める。

○ファッションロスゼロに向けた普及啓発の拡充

- ・より教育効果の高い場所への回収BOXの設置や仕分け体験ワークショップ、講演等を通じて、若い世代へのファッションロスゼロに向けた普及啓発の取組を拡充する。
- ・「循環フェス」や上記普及啓発の取組にかかる費用は、地域企業からの協賛等の資金を調達して継続実施。



R4.9月共同記者会見の様子



「循環フェス」での学生によるトークイベント

8. 横展開のポイント

① ビジネスモデルの確立

- ・古着事業に精通する事業者と連携することで、回収衣服の仕分け・値付けの精度が高まり、販路を確保できた。
- ・多くの地域事業者と連携することで、回収BOX設置に係る協力を得られた。
- ・衣服回収や販売を小さく始め、トライ＆エラーを重ねて規模を拡大。想定以上の販売実績があったことが、成功の一要因となった。

回収BOXによる回収	販売
・回収BOX設置数：約200か所 (市内約80か所。回収量は市外含む) ・回収量：平均1,700kg／月（約6,800点） ・仕分け段階のリユース可能率：回収量の約70%	・有料プラン回収BOX設置数：2か所 ・販売点数：平均1,300点／月（回収量の約20%） ・卸売価格：約300円／着（平均販売価格 930円） ・仕分け段階のリユース不可の衣服、店舗や催事の無料提供での売れ残り品はリサイクル業者に販売
<ランニングコスト概算> ・仕分け委託費 200千円／月 ・運搬費 160千円／月 ・倉庫賃借料 100千円／月 ・光熱費 2千円／月 ・諸経費 100千円／月	<売上概算> ・リユース販売 390千円／月 ・有料プラン月会費 10千円／月 ・リサイクル販売 7千円／月
計 562千円／月	計 407千円／月

※全体企画調整に係る人件費、普及啓発に係る経費を除く。金額は直近4ヶ月の平均。

8. 横展開のポイント

②事業者と行政の連携

- ・（株）ヒューマンフォーラムと地域企業をつなげるハブ的役割を担う京都信用金庫が中心となり体制を構築するとともに、市が情報発信や教育機関等とのコーディネート等の後方支援を行うことで、取組の規模拡大につながった。
- ・参画事業者と行政で連携協定を締結し、それぞれの強みを活かした役割を明確にすることで取組が加速。

<参画した事業者の声>

○株式会社ヒューマンフォーラム

- ・「循環」をテーマに、京都市の地域企業、団体、個人様との業務提携、協業する機会が増えました。
- ・循環フェスに出店する、使用済衣服の回収BOXを設置する、古着を回収BOXに入れる、イベントにボランティアで参加する等、社会課題や、地域課題に対し、誰もが参画しやすいプラットフォームになったと感じます。
- ・¥0マーケットの開催や、古着の回収依頼など、イベント主催者や企業より連絡、要望、相談を頂き、事業展開が広がりました。
- ・自治会、企業、中学、高校、大学などから、循環や使用済衣服についての、講演依頼を頂く機会が増えた。古着活用の啓蒙活動と共に、回収した衣服の仕分け体験を参加者と一緒に行った。アンケートなどで、意識改善などの声をもらいました。

8. 横展開のポイント



< 参画した事業者の声（続き） >

○京都信用金庫

- ・学生の街といわれる京都においてファッションを切り口とした地域課題解決の取組を行うことは、未来をつくる若者世代が環境問題や3Rに目を向けるきっかけになると考えました。当金庫では、2018年に大手アパレルメーカーと古着回収プロジェクトを実施した経験があり、より地域に密着した形で衣服の循環を実現させたいという思いのもとに地域企業との連携を模索し、本事業の実施に至りました。
- ・地域の事業者様にもこのプロジェクトをご案内し、環境や社会に配慮した「ESG経営」のきっかけとなるよう繋げるとともに、地域のソーシャルマインド（社会的な意識）の醸成を目指します。

○株式会社ジェイ・エス・ビー

- ・本事業に参画して以降、当社運営の学生マンションへの古着回収BOX設置や地域住民の皆様向けに開催した古着回収イベント等を通じて、多世代にわたる環境意識の高まりを実感しました。
- ・企業単独での取り組みではなく、未来を担う若者と一緒に環境配慮の取り組みを行うことで、現役世代の我々が未来にバトンを渡す責任を感じる機会にもなっており、本事業は非常に意義深い取り組みだと感じております。
- ・また、古着回収を通じ、我々が果たしたい責任に対して、若者が応えていただくことで、会話をしているような感もあり、今後も明るく楽しく多世代が連携をして、社会課題を解決していくことができると考えております。

○安田産業株式会社

- ・リリースキャッチに取り組む事は、地域コミュニティとの共創プログラムとして非常に分かりやすく、また誰もが取り組みやすいこともあり、それぞれが社会的責任や社会問題への意識づけ、実行動、それらの継続というものに非常に大きな効果が社内外においてありました。

8. 横展開のポイント



③若い世代への訴求と運営に参画してもらう仕掛けづくり

- ・事業の目的「リデュース、リユース、リサイクルの若者文化を醸成する」を達成するために、事業の企画段階から若い世代への訴求や気軽に運営に携わることができる体制づくりを進めた。

(取組例)

- ・「循環フェス」で学生企画チームをつくり、高校・大学生がステージイベントの司会進行を務め、学生による出店ブースを設けた。
- ・気軽にイベントに参画できる仕掛けとして、当日の運営を補助する学生ボランティアを募り、回収コーナーや¥0マーケットの品出し等を担ってもらった。
- ・主に高校生、大学生を対象に総合学習等の時間やゼミ活動の中で「サステナブルファッション」をテーマにワークショップ等を実施し、環境教育を推進。
特に、実際に回収した衣服の仕分け体験ワークショップは「古着」に対する価値転換や実体験として非常に好評であった。
- ・SNSでの発信等、若い世代へ訴求するためのデザインや発信方法を工夫。

8. 横展開のポイント

<参画した学生等の声>

○「循環フェス実行委員会」学生メンバーに参加（大学2年生）

- ・もともと古着が好きで、大量生産・大量廃棄に疑問をもち、行動に移したいと思っていた。
- ・「循環フェス」には、ご高齢の方やファミリー層も多くいると感じた。ファッションロスに大きく関わっているのは若者なのではないかと思っているので、もっと若者層を巻き込みたい。
- ・働くことに対する固定概念があったが、循環フェスを通して素敵なお仕事・働き方をしている方が多いと感じた。実際にいろんな方と関わることによる学びがたくさんあった。

○「RELEASE⇔CATCH」のメンバーとして活動（大学3年生から卒業後も参加）

- ・もともとファッションロスに対して関心がなく、アルバイト代を全て洋服代にかけるほど、洋服を買ってはゴミとして捨てる、という生活だった。
- ・偶然「循環フェス」の学生実行委員に誘われ“ノリ”で参加したことで、少しずつファッションロスへの課題感が芽生えた。
- ・行動を変えたことで意識が変わった。



DO YOU KYOTO?

2050

ゼロ

ゼロ

変わろう、今。変えよう、未来。

CO₂ 0
2050
京からCO₂ゼロ